

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 61251607
PUBLICATION DATE : 08-11-86

APPLICATION DATE : 30-04-85
APPLICATION NUMBER : 60093080

APPLICANT : SHISEIDO CO LTD;

INVENTOR : SAITO MASAOKI;

INT.CL. : A61K 7/00

TITLE : PACK COSMETIC

ABSTRACT : PURPOSE: A pack cosmetic, containing a water-soluble salt of alginic acid and bi- or polyvalent metal salt reactive with the salt and further amino acid and/or salt thereof incorporated therein, and having good usability and improved quick drying properties.

CONSTITUTION: A pack cosmetic containing (A) 5~20wt% water-soluble salt of alginic acid, preferably Na salt, (B) 15~35wt% bi- or polyvalent metal salt reactive with the component (A), e.g. calcium sulfate or calcium citrate, (C) 1~5wt% amino acid, e.g. glycine, alanine or aspartic acid, and/or a salt thereof, e.g. Na or K salt, and 0~8wt% gelation inhibitor, e.g. Na phosphate and, optionally, polyethylene glycol as a humectant component. The pack cosmetic is good for the finished state and peelability and has a long pot life.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-251607

⑮ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)11月8日

A 61 K 7/00

7306-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 バック化粧料

⑰ 特 願 昭60-93080

⑱ 出 願 昭60(1985)4月30日

⑲ 発 明 者 清水 和彦 横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

⑲ 発 明 者 斉藤 雅昭 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内

⑲ 出 願 人 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

明 細 書

1. 発明の名称

バック化粧料

2. 特許請求の範囲

アルギン酸水溶性塩類、該塩類と反応しうる二価以上の金属塩類を配合してなるバック化粧料において、アミノ酸及び／又はその塩を配合することを特徴とするバック化粧料。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、使用性が良好な、速乾性に優れたバック化粧料に関する。

〔従来の技術〕

バック化粧料は、皮膜を形成させ、その後、剥離するタイプのものが主流であり、その中で、アルギン酸塩の皮膜を利用したタイプが知られている。このものは、アルギン酸水溶性塩類に、硫酸カルシウムのように該塩類と反応しうる二価以上の金属塩類を配合しており、使用時に水と混合し、泥状となった本品を均一に顔全体に塗布して皮膜を

形成させている。

このタイプのバックは、適度の乾燥時間をもたせる点がポイントであり、アルギン酸水溶性類と反応しうる二価以上の金属塩類に特定のものを選ぶとか、反応性が高い例えば硫酸カルシウムを用いた場合にはゲル化反応を抑制するために反応調整剤としてアルカリ金属塩を配合したりして工夫をしている。

〔発明が解決しようとする問題点〕

しかしながら、これらの構成からなるバック化粧料はいずれも使用性の点で、肌のしっとりさに欠ける、こくがない、又緊張感がマイルドでない等の欠点があった。

〔問題を解決するための手段〕

本発明者らは、こうした事情にかんがみ、上記の欠点を解決すべく鋭意研究を重ねた結果、アルギン酸塩を使用する、剥すタイプのバック剤において、アミノ酸及び／又はその塩を配合することにより、使用性が良好な、速乾性に優れたバックが得られることを見い出し本発明を完成するに至

った。

すなわち本発明は、アルギン酸水溶性塩類、該塩類と反応しうる二価以上の金属塩類を配合してなるバック化粧料において、アミノ酸及び／又はその塩を配合することを特徴とするバック化粧料を提供するものである。

以下本発明の構成について詳述する。

本発明で用いられるアルギン酸水溶性塩類としては、アルギン酸のナトリウム塩、カリウム塩、アンモニウム塩等があげられる。これらのうちナトリウム塩が好ましい。配合量は5～30重量％で、好ましくは5～20重量％である。

本発明においてアルギン酸水溶性塩類と反応しうる二価以上の金属塩類としては、クエン酸カルシウム、硫酸カルシウム、乳酸カルシウム、塩化カルシウム、硫酸亜鉛、硫酸アルミニウム、乳酸亜鉛等をあげることができ、これらを一種又は二種以上配合することができる。これらのうちクエン酸カルシウム、硫酸カルシウム、乳酸カルシウムが好ましい。配合量は10～40重量％、好ましく

は15～35重量％である。

アルギン酸水溶性塩類は5重量％未満では皮膜が弱くなり、30重量％を超えると、水と混ぜにくくなり好ましくない。二価以上の金属塩類は10重量％未満であると凝固しにくいし、40重量％を超えると皮膜形成が早く進み扱いにくく好ましくない。

本発明で用いられるゲル化反応抑制のための反応調整剤としては、通常解離度の高いものが用いられ、例えばリン酸、縮合リン酸、炭酸、酒石酸、クエン酸等のアルカリ金属塩特にナトリウム塩等が好ましい。配合量は0～10重量％、好ましくは0～8重量％である。

本発明で用いられるアミノ酸は、中性アミノ酸および酸性アミノ酸であり、例示すれば、グリシン、アラニン、セリン、バリン、トレオニン、アスパラギン酸、グルタミン酸等である。酸性アミノ酸はアルカリ塩の形で用いられても構わない。その塩の対イオンは、任意のもので良く、例えばナトリウム塩、カリウム塩、リチウム塩等の無機アルカリ、アルギニン塩、リジン塩、ヒスチジン

塩、オルニチン塩等の塩基性アミノ酸、トリエタノールアミン等の塩基性アミン等の塩を挙げることができる。これらの塩の中では、ナトリウム塩、カリウム塩がとくに好ましい。

本発明においては、上記のアミノ酸および／又はその塩のうちから任意の1種又は2種以上が選ばれて用いられる。配合されるアミノ酸および／又はその塩の量は、0.1～10重量％、好ましくは1～5重量％である。但し過剰のアミノ酸の添加は、アミノ酸自身が変質し、変色、変臭等を生じるために注意が必要である。アミノ酸の配合効果として保湿効果が高まる点も挙げられるが、さらに保湿効果を得るにはポリエチレングリコール（平均分子量4000～20000が好ましい）、又は粉末状多糖類（マルトース、マビット等）を配合する。配合量は使用性に応じて任意の量を決めれば良い。

本発明のバック化粧料には、必要に応じ賦形剤（例えば、結晶セルロース、炭酸マグネシウム、タルク、ケイソウ土、シリカ、カオリン、二酸化

チタン、亜鉛華等）40～70重量％、色剤、香料、薬剤、防腐剤などが配合される。又、冷却効果を持たせるために1-メントール（0.005～0.1重量％程度）等も配合されても構わない。

もちろんこれらは本発明の目的を損わない質的、量的条件下で使用されなければならない。

〔発明の効果〕

本発明のバック化粧料は、速乾性で、使用性、仕上がり状態、剥し易さ、使用可能期間等バック化粧料として要求される性質を兼備するものである。

〔実施例〕

以下、実施例によって本発明をさらに詳細に説明する。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量％である。

（以下余白）

〔実施例 1, 2, 3、比較例 1〕

		実施例 1	" 2	" 3	比較 例 1
1	アルギン酸ナトリウム	20	"	"	"
2	硫酸カルシウム	15	"	"	"
3	リン酸三ナトリウム	5	"	"	"
4	1-メントール	0.005	"	"	"
5	グリシン	0.5	—	—	—
6	グルタミン酸ナトリウム	—	5	2	—
7	結晶セルロース	10 % 100	"	"	"

(製造法)

1～7をアトマイザー処理して均一に混合してバック化粧料を製造した。

(効果)

上記の実施例 1～3、比較例 1 のバック化粧料を使用時約 2 倍の水と混合し泥状物とした。

泥状物を 10 名のパネルの顔に使用し、その物性などを試験した。

試験項目は下記のとおりであり、その評価を下記のような点数で示した。その結果を第 1 表に示す。

なお表中の評価はいずれも平均値である。

(A) : 肌への緊張感

1. 塗布中の緊張があり過ぎビリビリする。
2. 塗布中ビリビリを感じる。
3. 満足のいくマイルドな緊張感がある。

(B) : 剥離性 (10 分後)

1. 1 枚の膜となつてはがせない。
2. 皮膚にバックが残る。
3. きれいな 1 枚の膜となつてはがせた。

(C) : 剥離後のしっとりさ

1. しっとりしない。
2. 若干しっとりした。
3. 満足のいくしっとりさを感じた。

(D) : 剥離後の経時でのしっとりさの持続性

1. 持続しない。
2. 2～3 分迄はしっとりさを感じた。

3. 10 分後以上しっとりさを感じた。

第 1 表

バック剤 の実施例	物性の評価				合計点
	A	B	C	D	
実施例 1	3	3	3	3	12
実施例 2	3	3	3	3	12
実施例 3	3	3	3	3	12
比較例 1	2	2	1	1	6

第 1 表から明らかなように実施例 1～3 のバック化粧料は、使用性、保湿効果、剥し易さ等に非常

(以下余白)

に優れた速乾性バックであることが判る。

〔実施例 4, 5, 6、比較例 2, 3〕

		実施例 4	" 5	" 6	比較 例 2	" 3
1	アルギン酸カリウム	15	"	"	"	"
2	クエン酸カルシウム	30	"	"	"	"
3	クエン酸ナトリウム	1	"	"	"	"
4	1-メントール	0.05	"	"	"	—
5	アラニン	0.1	—	—	—	—
6	セリン	—	10	—	—	—
7	バリン	—	—	1	—	—
8	PEG 4000	1	"	"	—	1
9	粉末マビット	1 100%	"	"	—	1
10	タルク	100	"	"	"	"

(製造法)

1～10をアトマイザー処理して均一に混合してバック化粧料を製造した。

第2表

バック剤 の実施例	物性の評価				合計点
	A	B	C	D	
実施例4	3	3	3	3	12
実施例5	3	3	3	3	12
実施例6	3	3	3	3	12
比較例2	2	2	1	1	6
比較例3	2	2	2	1	7

実施例1～3と同様にして物性の評価を行った結果、実施例4～6は、使用性、保湿効果、剥し易さ等に非常に優れた速乾性バックであることが確認された。

特許出願人 株式会社 資生堂